



「柏市未来につなぐ魅力ある学校づくり基本方針」について

令和7年8月18日（月）

柏市教育委員会 教育政策課

1 柏市が目指すこれからの学校教育とは・・・？



1

誰一人取り残さない学校教育の推進

不登校児童生徒が増加
(8年で4倍以上に増加)

小中ギャップ
小1プロブレム

子どもの居場所

少子高齢化
核家族化

加速度的な
社会の変化

予測困難な時代

学校規模の格差拡大
(小規模な学校が増加)

児童生徒数の減少
(30年後には20%以上減少)



教職員の多忙化

グローバル化

多様な背景を持つ児童生徒
(いじめ, 外国籍, 経済困窮な
ど)

多様性理解

特別支援教育

地域とのつながりの
希薄化

学校施設の老朽化

通学路の安全

自然災害

安全・安心な給食

2

学びを支えるよりよい教育環境づくり

2 基本方針の概要



(1) 第4期教育振興基本計画

2つのコンセプト

持続可能な社会の 創り手の育成

- 将来の予測が困難な時代に、未来に向けて自らが社会の創り手となり、持続可能な社会を維持・発展させていく人材を育てる
- 主体性、リーダーシップ、創造力、課題設定・解決能力、論理的思考力、表現力、チームワークなどを備えた人材の育成

日本社会に根差した ウェルビーイングの向上

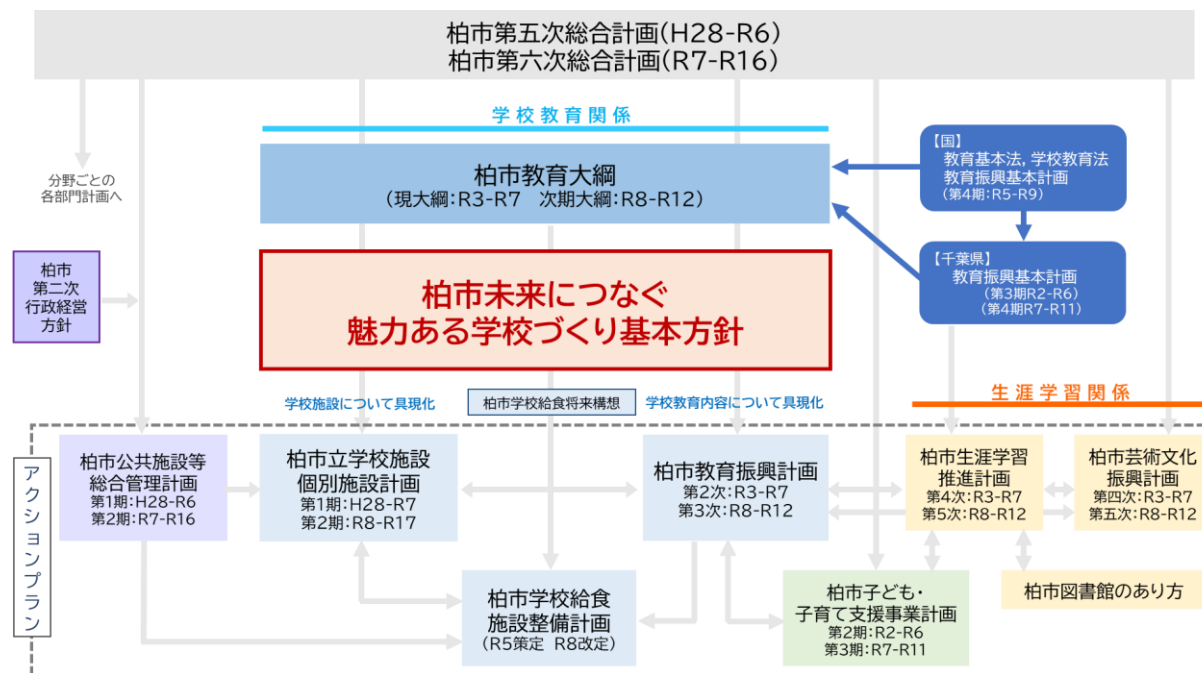
- 多様な個人それぞれが幸せや生きがいを感じるとともに、地域や社会が幸せや豊かさを感じられるものとなるよう、教育を通じてウェルビーイングを向上
- 幸福感、学校や地域でのつながり、協働性、利他性、多様性への理解、社会貢献意識、自己肯定感、自己実現等を調和的・一体的に育む

5つの基本的な方針



出典：「第4期教育振興基本計画」リーフレット 文部科学省

(2) 位置付け（他の計画との関係性）



(3) 期間

令和7(2025)年度から令和16(2034)年度までの10年間

※ 以降, 国の動向や市立学校を取り巻く状況等を踏まえ修正
(10年を一つの目安とする)

3 柏市の学校教育が目指す子ども像



目指す子ども像

自他の対話を大切にしながら 学び続けるかしわっ子
～よりよい自分 よりよい“かしわ”を目指して～

- ！ 他者との対話や関わり合いだけでなく、自分自身との対話を大切にして、自己肯定感を高めてほしい
- ！ なりたい自分を模索し、個々の想いやよりよい社会の実現を目指して学び続けてほしい
- ！ “かしわっ子”として、地域との関わりを通じて成長してほしい

目指す子ども像の実現へ向けて

4 実現へ向けた柱となる事業・取組（トピックス6点）



- 令和5年11月から令和7年2月まで計9回の「教育政策審議会」にて審議
目指す子ども像の実現へ向けた取組を以下のとおりとした

目指す学校教育

誰一人取り残さない学校教育

学びをつなぐ

- 小中一貫教育の推進
- グローバルな人材の育成

子ども主体の学び

- 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実
- 特別支援教育の推進

安全・安心な居場所づくり

- 不登校児童生徒への支援
- 教育相談の充実
- 子どもの居場所

家庭・地域とともに

- コミュニティ・スクールの活性化
- 市立柏高等学校の魅力化

生き生きと働き 学び続ける教職員

- 子どもと向き合う時間の確保
- 教職員研修の充実

学びを支える教育環境

- 将来を見据えた学校のあり方
- 新しい時代の学びを実現する学校施設の整備
- 安全・安心な学校施設の充実
- 心身の健康を支える給食の提供

4 実現へ向けた柱となる事業・取組（トピックス6点）



(1) 学びをつなぐ

① 小中一貫教育の推進



柏第一小学校 柏中学校区乗り入れ授業の様子
(令和6年7月実施 6年算数・英語)

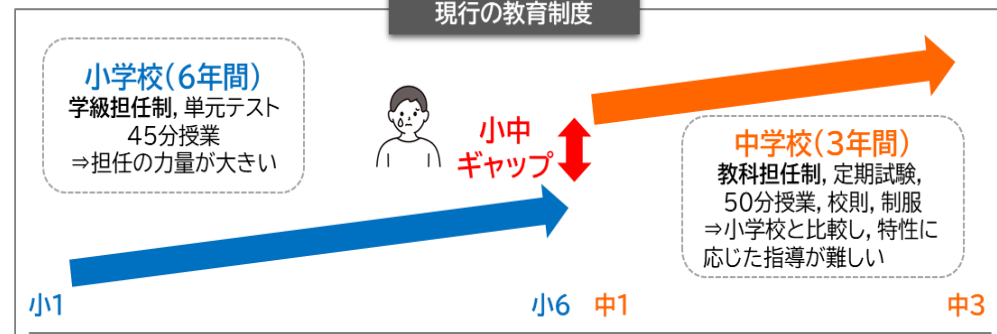
今日的な教育課題

- ① 長期欠席児童生徒の急増
- ② 特別支援学級児童生徒への対応
- ③ 小1プロブレム、小中ギャップ
- ④ 学校の役割の多様化・複雑化
- ⑤ 教員・管理職不足
- ⑥ 学校の働き方改革
- ⑦ 人口減少、学校規模の不均衡
- ⑧ 施設の老朽化・修繕コスト

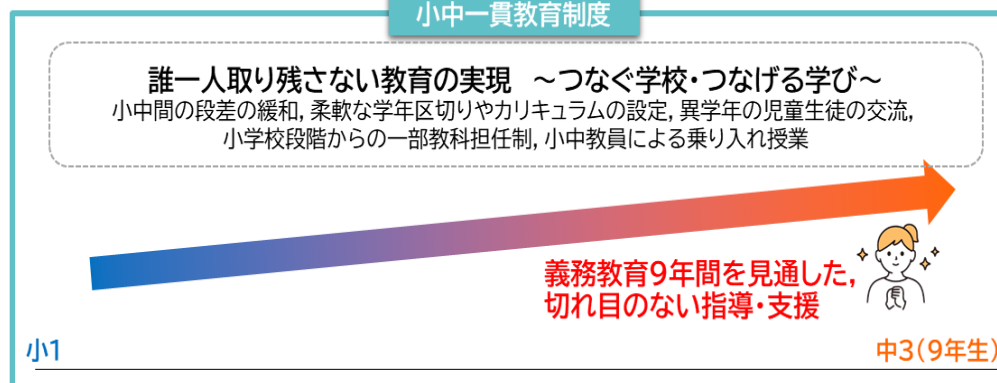
小中一貫教育

- ① 長期欠席児童生徒への支援の充実
- ② 切れ目のない支援の実現
- ③ 連続性のある指導の実現
- ④ 教職員の連携による組織的対応
- ⑤ 組織的な教育活動・事務の実現
- ⑥ 効率的な事務の実現
- ⑦ 子供の数の減少に合わせた運用
- ⑧ 施設の維持コストの削減

現行の教育制度



小中一貫教育制度



- ★ **市内全校で小中一貫教育を推進**。義務教育9年間を通して系統性、連続性のある教育活動を実施
- ★ 小1プロブレムや小中ギャップ、心身発達の早期化に対応。**学びの連続性を確保**

4 実現へ向けた柱となる事業・取組（トピックス6点）

(1) 学びをつなぐ

② グローカルな人材の育成



「グローバル」とは・・・？

「Global(世界的な)」と「Local(地域的な)」を組み合わせた言葉。
国際的な視点を持って地域社会に貢献する取組のこと。



グローバル化が進む現代社会で，“世界とつながる”とともに、
“地域とつながる” **グローバル人材** を育成

対応の方向性

- ❑ **英語教育・国際理解教育**の推進
- ❑ 英語力の向上を図るための**環境整備**
- ❑ 地域と連携した**地域学習**の推進

- ➡ インターナショナルスクール等との交流，ALTとの国際交流会
- ➡ 小学校1,2年生段階からの外国語に触れる機会の拡充，各種資格等の取得促進
- ➡ 学校運営協議会や地域の企業等と連携した地域学習の推進



オーストラリアカムデン高校
とのオンライン交流



ALTとの国際交流会



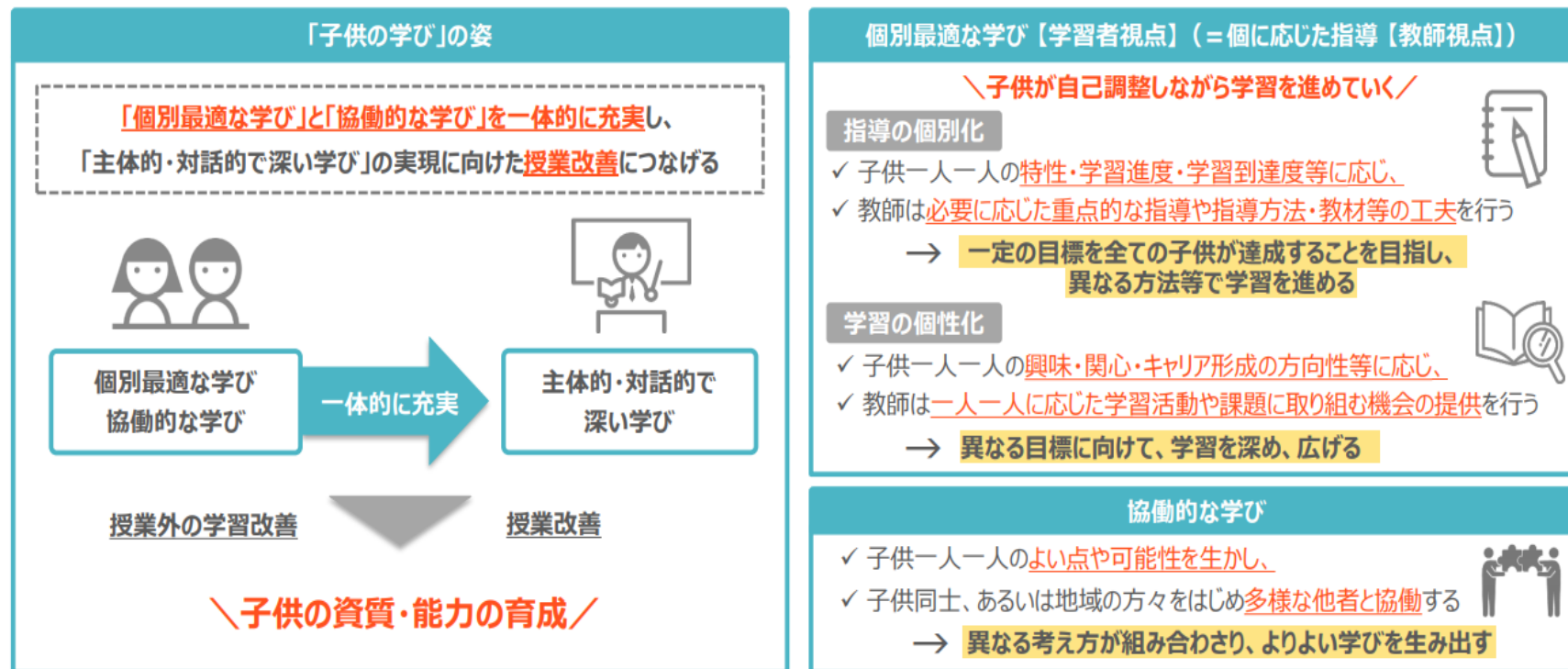
姉妹都市トランス市との交流会

4 実現へ向けた柱となる事業・取組（トピックス6点）



(2) 子ども主体の学び

① 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実



出典：中央教育審議会「令和の日本型学校教育」の構築を目指して（答申）総論解説

★ 対話を重視する授業，自己選択・自己決定する授業，多様な人と学び合う授業を推進

★ 「1人1台端末」を活用した個別最適な学び・協働的な学びを推進

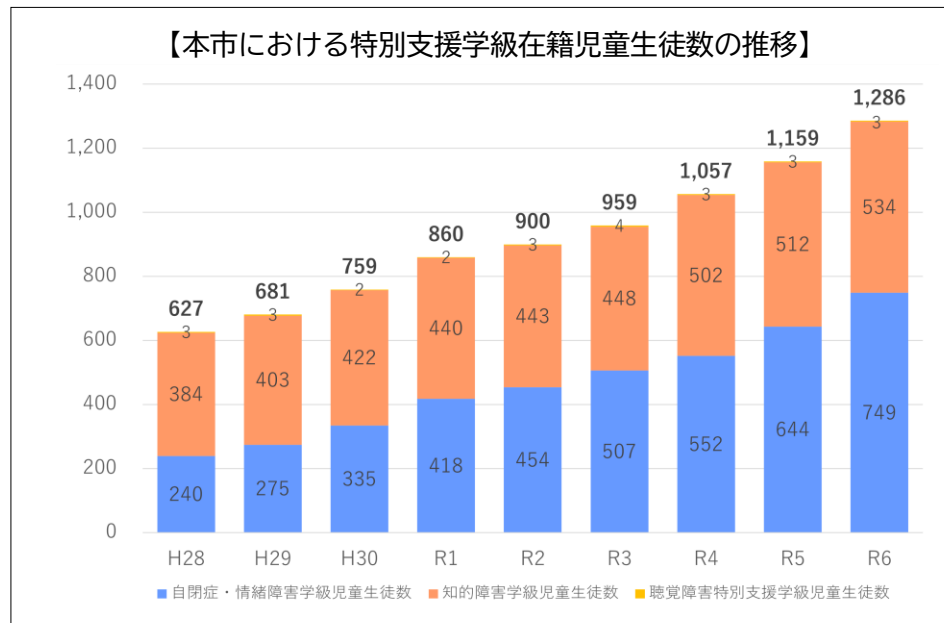
自ら考え，主体的に学びに向かう “自律した学び手” を育てる

4 実現へ向けた柱となる事業・取組（トピックス6点）

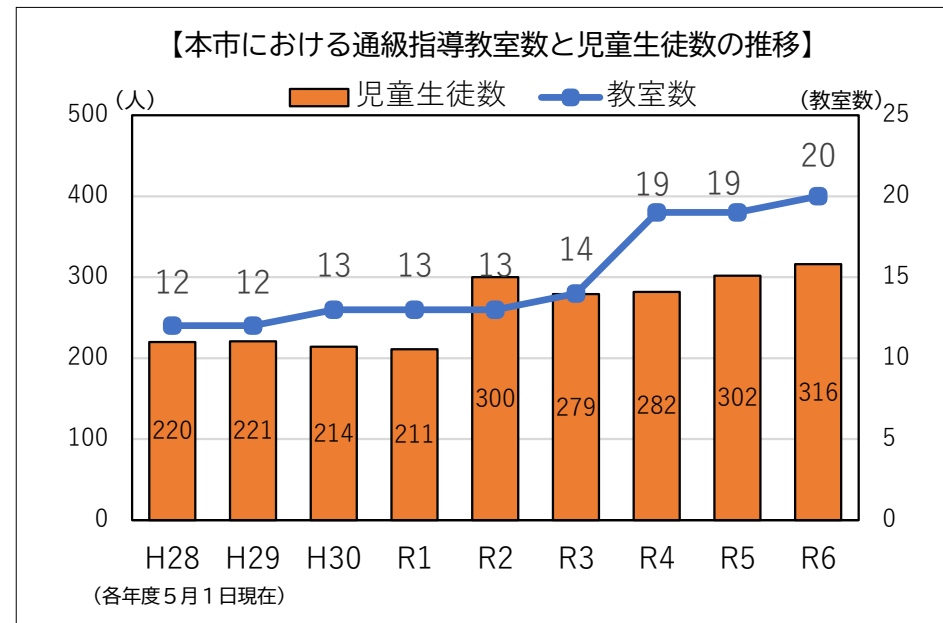


(2) 子ども主体の学び

② 特別支援教育の推進



出典：柏市教育委員会資料



出典：柏市教育委員会資料

★ 個別の教育ニーズに対して、関係機関との連携のもと、連続性のある多様な学びの場での教育を充実

★ インクルーシブ教育(※)システムを構築 ※障害のある子とない子が共に学ぶ仕組み

★ 教員の専門性及び指導力の向上を推進（研修の充実，免許状取得率の向上へ向けた取組）



「誰一人取り残さない教育」の実現を図る

4 実現へ向けた柱となる事業・取組（トピックス6点）



(3) 安全・安心な居場所づくり

① 不登校児童生徒への支援の充実

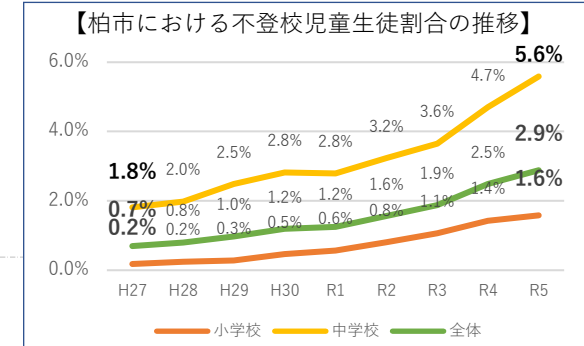
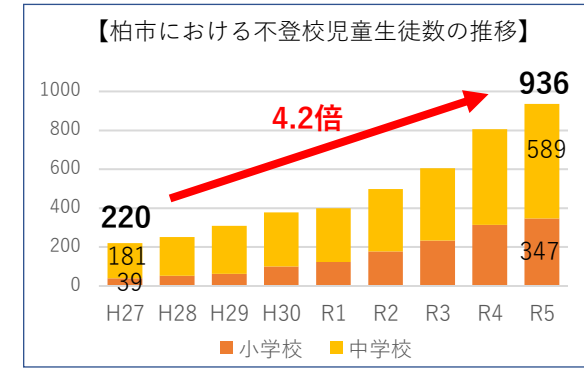
★ 不登校児童生徒にとっての学びの選択肢（居場所）を確保

- ・ 小学校での校内教育支援センター(※)の整備
- ・ 学びの多様化学校(※)に関する調査・研究

★ 子どもたちが自発的に行きたくなる 学校づくりを推進

※校内教育支援センター：
クラスに入りづらいと感じる児童生徒の居場所
として校内に設置

※学びの多様化学校：
不登校児童生徒の実態に配慮して、特別な教育
課程を編成して教育を実施する学校



② 子どもの居場所

★ 放課後子ども教室とこどもルームを一体的に運営する『アフタースクール事業』を推進

➡ 全ての子どもが自分らしく過ごせる**安全・安心な居場所**を確保

【先進自治体での事例】

※ 令和6年度第2回柏市総合教育会議資料より



4 実現へ向けた柱となる事業・取組（トピックス6点）

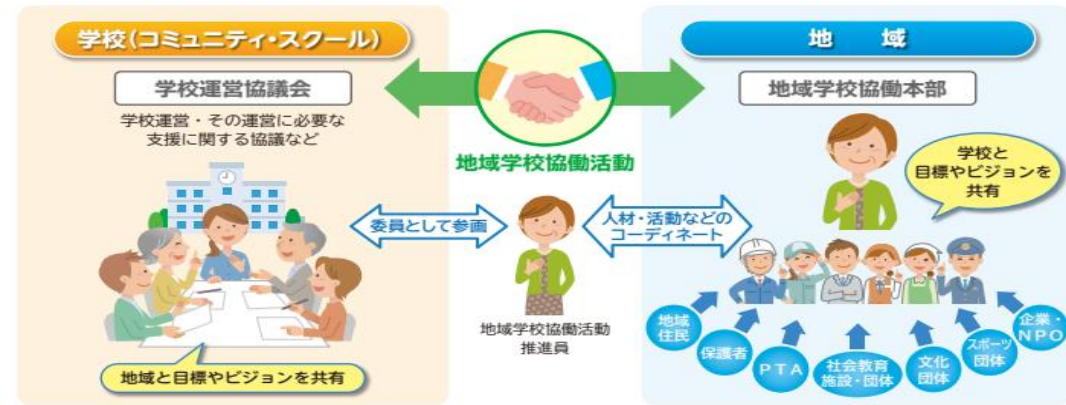


(4) 家庭・地域とともに

① コミュニティ・スクールの活性化

- ★ 「地域の支援」から「**地域との連携・協働**」へ
 - ⇒ 登下校の見守り，授業支援，放課後活動支援
- ★ 各校ごとの活動をネットワーク化
 - ⇒ 学校を核とした**地域の人的なつながり**を推進

市立小中学校全63校はコミュニティ・スクールに(R5～)



地域とともにある学校の実現へ

② 市立柏高等学校の魅力化

本市唯一の市立高校としての更なる魅力化へ向けて・・・



- ★ **学習環境の充実，キャリア教育**の推進
 - ⇒ ICT教育・インターンシップ活動の推進，施設面での新たな取組
- ★ 地域と歩み続ける**部活動**の推進
 - ⇒ **地域スポーツや文化の拠点**として地域を支える存在へ

【市立柏高等学校】



4 実現へ向けた柱となる事業・取組（トピックス6点）



(5) 生き生きと働き・学び続ける教職員

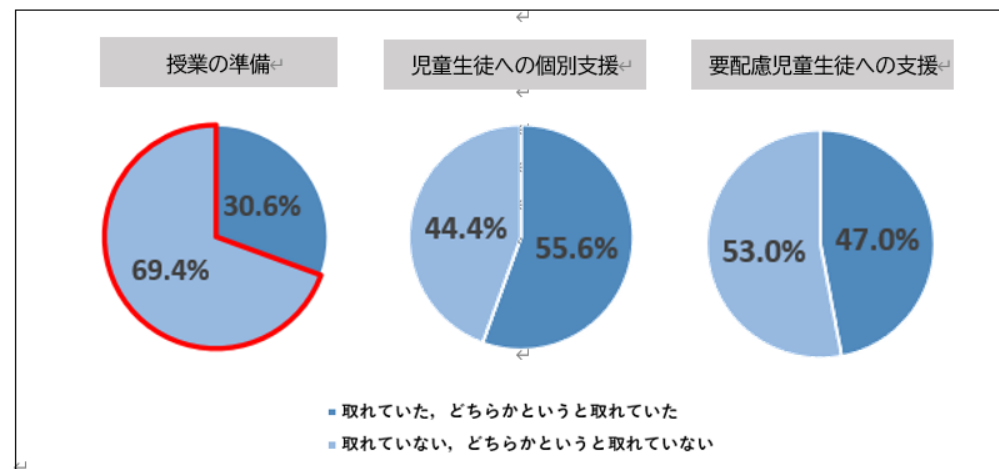
① 子どもと向き合う時間の確保

★ 教職員が担う業務の明確化

⇒ 支援員等の人材確保, 外部委託, 家庭・地域との協働

★ 働きがいのある職場環境づくり

⇒ 在校時間の適正化, 校務のDX化, 給食費の公会計化



出典: 柏市教育委員会資料

『教師でなければできないこと』に
全力で取り組める環境整備へ

② 教職員研修の充実

「令和の日本型教育(参考: スライド7)」を担う新たな学び, 協働的な教師の学びへ向けて・・・

- ★ 主体的に学び続ける教職員の育成 ⇒ アクションプラン実践研修等, キャリアステージに応じた研修体系の構築
- ★ 職層に応じたマネジメント力の育成 ⇒ チーム単位での研修等, 積極的な対話を前提とした協働的な学習



教職員の姿

- ✓ 環境の変化を前向きに受け止め、教職生涯を通じて学び続けている
- ✓ 子供一人一人の学びを最大限に引き出す教師としての役割を果たしている
- ✓ 子供の主体的な学びを支援する伴走者としての能力も備えている

#教師の資質・能力の向上 #多様な人材の確保 #家庭や地域社会との連携
#学校における働き方改革 #教職の魅力発信 #教職志望者の増加

出典: 中央教育審議会「令和の日本型学校教育」の構築を目指して(答申)総論解説

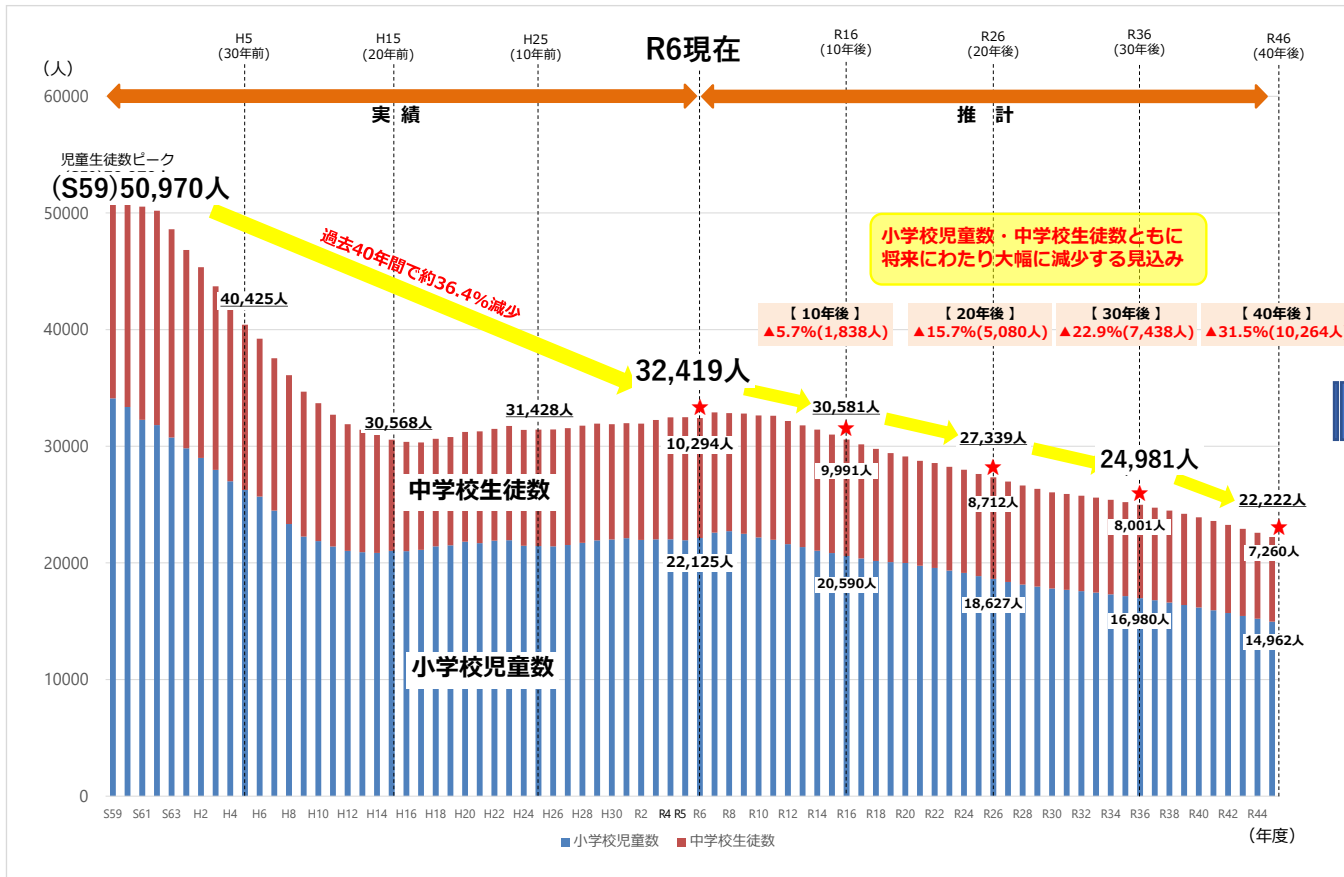
4 実現へ向けた柱となる事業・取組（トピックス6点）



(6) 学びを支える教育環境

① 将来を見据えた学校のあり方

ピーク時から40年で約36.4%減少、今後の30年間でさらに20%以上減少

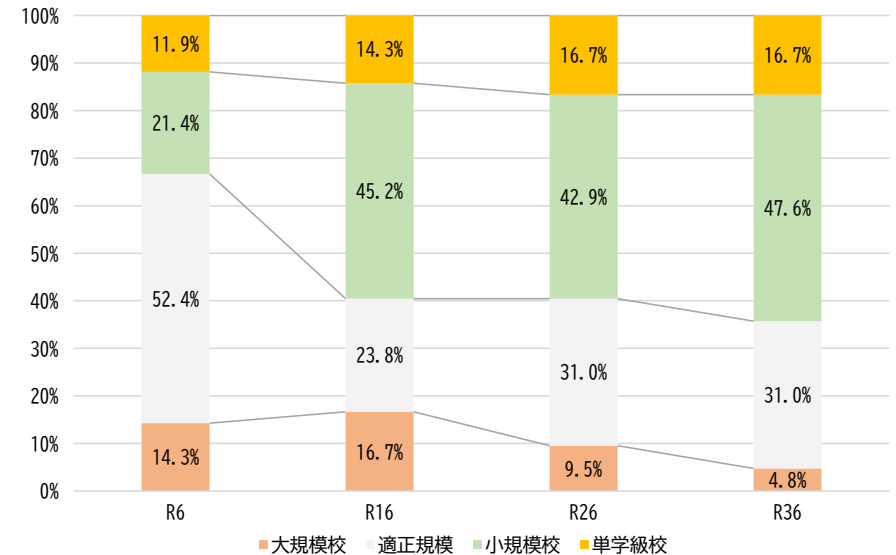


地域により差はあるものの、全体として小規模な学校が増加していく見込み

【小学校における学校規模の予測(R6～R36)】

※ 各学校の総児童生徒数の推計に基づき色分け

- 単学級校(全学年1学級)：～210人以下
- 小規模校：211人～420人以下
- 適正規模：421人～840人以下
- 大規模校：841人以上



※中学校も同様の傾向と予測

4 実現へ向けた柱となる事業・取組（トピックス6点）



(6) 学びを支える教育環境

① 将来を見据えた学校のあり方

『子どもの教育環境が最優先』の視点に立ち、**柏市としての望ましい学校規模・望ましい通学距離を設定**

【望ましい学校規模】

- ✓ 小学校：1学年あたり3学級から4学級（1校あたり18学級から24学級）
- ✓ 中学校：1学年あたり4学級から6学級（1校あたり12学級から18学級）
- ✓ 義務教育学校（前期）1学年あたり3学級から4学級
（後期）1学年あたり4学級から6学級（1校あたり30学級から42学級）

【望ましい通学距離】

- ✓ 小学校：2 km以内 中学校：6 km以内
- ※ 小学校低学年児童は2km歩くのに約30分を要し、40分を超える通学時間にはストレスが生じる可能性があることや、保護者が望む通学時間を参考として設定
- ※ 中学校では学校・地域の道路状況等を踏まえ、一定の通学距離を超える生徒には自転車通学を許可

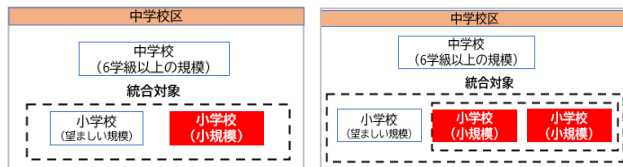
（参考：望ましい学校規模に関するアンケート結果）

	学級数	保護者		教職員（非管理職）		教職員（管理職）	
		回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
小学校	1学級	78	0.8%	2	0.2%	0	0%
	2学級	758	7.2%	50	5.9%	9	12.7%
	3学級	4,627	44.1%	561	65.9%	53	74.6%
	4学級	3,409	32.5%	207	24.3%	8	11.3%
	5学級	1,241	11.9%	27	3.2%	0	0%
	6学級	264	2.5%	1	0.1%	1	1.4%
	7学級以上	107	1.0%	3	0.4%	0	0%
合計		10,484		851		71	
中学校	1学級	13	0.3%	0	0%	0	0%
	2学級	36	0.8%	3	0.8%	0	0%
	3学級	519	11.6%	33	8.5%	3	8.1%
	4学級	1,232	27.6%	220	56.9%	25	67.6%
	5学級	1,497	33.7%	76	19.6%	3	8.1%
	6学級	962	21.6%	52	13.4%	6	16.2%
	7学級以上	198	4.4%	3	0.8%	0	0%
合計		4,457		387		37	

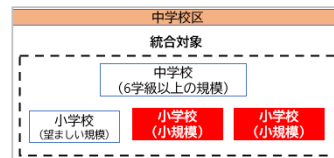
★ 目指す子ども像の実現へ向け、子ども達が将来をたくましく生きる力を身に付けられるよう、**一定の集団規模を確保した学校づくり**を推進

《学校づくりの取り組み例》

A：小学校同士の統合



B：施設一体型の義務教育学校の設置



（参考：通学時間の許容範囲に関するアンケート結果）

許容時間	保護者（小1～3）		保護者（小4～6）		教職員		学校運営協議会委員	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
～15分	2,810	50.0%	2,278	46.9%	268	29.1%	26	14.7%
15～30分	2,711	48.2%	2,473	50.9%	623	67.6%	132	74.6%
30～45分	94	1.6%	102	2.1%	31	3.3%	18	10.2%
45分～	10	0.2%	6	0.1%	0	0%	0	0%
その他	—	—	—	—	—	—	1	0.5%
合計	5,625		4,859		922		177	

許容時間	保護者		教職員		学校運営協議会委員	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
～15分	1,609	36.1%	67	15.8%	26	14.7%
15分～30分	2,718	61.0%	330	77.8%	132	74.6%
30分～45分	124	2.8%	26	6.1%	18	10.2%
45分～	6	0.1%	1	0.3%	0	0%
その他	—	—	—	—	1	0.5%
合計	4,457		424		177	

★ 望ましい通学距離以上を歩く児童には、学校や地域の状況等を踏まえ、**スクールバスの運行を含めた安全対策**を検討

4 実現へ向けた柱となる事業・取組（トピックス6点）



(6) 学びを支える教育環境

② 新しい時代の学びを実現する学校施設を整備

「個別最適な学び」
「協働的な学び」の充実
「主体的・対話的で深い学び」の実現

地域との
共創

地域や社会と連携・協働した**共創空間**
他の公共施設等との
複合化・共用化

新しい
時代の学び

生活
空間

健やかな学習環境，
快適な生活空間を確保する
空調設備の設置

環境
配慮

柏市役所ゼロカーボンアクション
プランに基づく
環境に配慮した施設づくり

避難所
対応

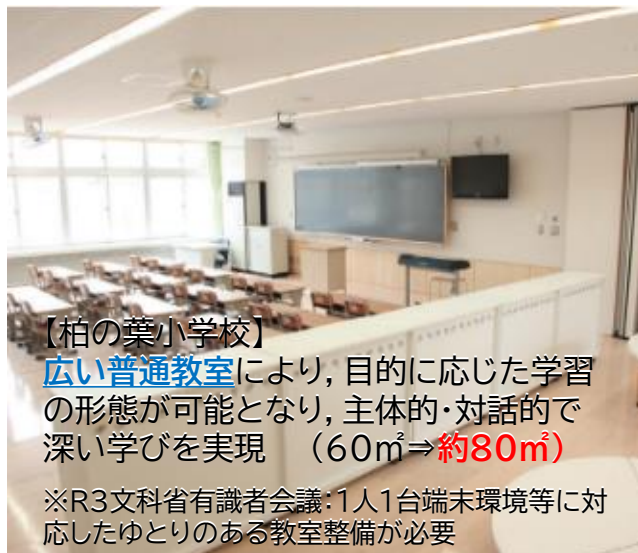
大地震や昨今の豪雨に対応する
避難所機能の強化

4 実現へ向けた柱となる事業・取組（トピックス6点）



(6) 学びを支える教育環境

② 新しい時代の学びを実現する学校施設を整備



【柏の葉小学校】

広い普通教室により、目的に応じた学習の形態が可能となり、主体的・対話的で深い学びを実現（60㎡⇒約80㎡）

※R3文科省有識者会議：1人1台端末環境等に対応したゆとりのある教室整備が必要



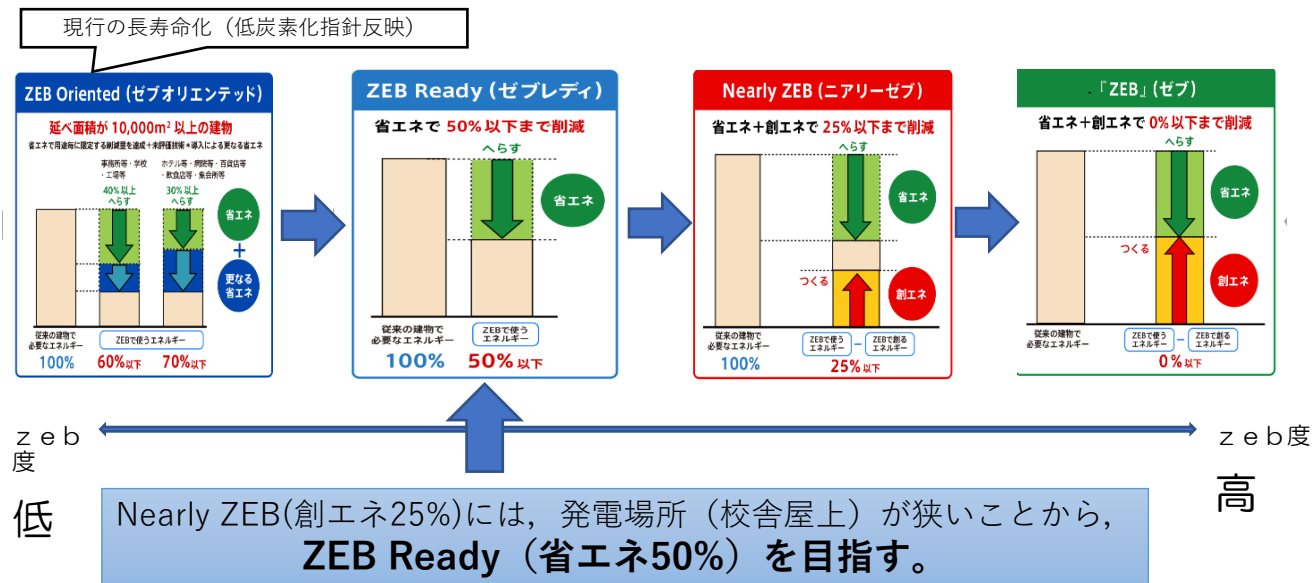
【田中北小学校】

学習の中心となるラーニングセンターとしての機能を持つ図書室は子どもたちが気軽に本に触れる空間



他の公共施設（近隣センター、図書館等）との複合化・共用化を図り、多様な「知」が集積し新しい価値を生み出す施設として整備

➡ 児童生徒や地域住民にとっての多様な学習環境の創出、公共施設の有効活用を図る



4 実現へ向けた柱となる事業・取組（トピックス6点）

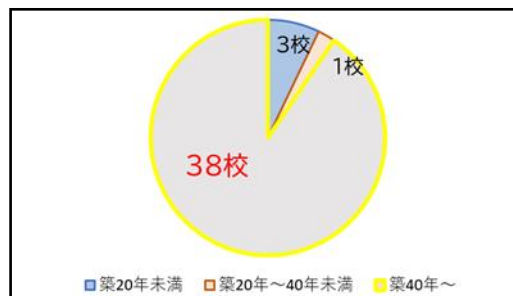


(6) 学びを支える教育環境

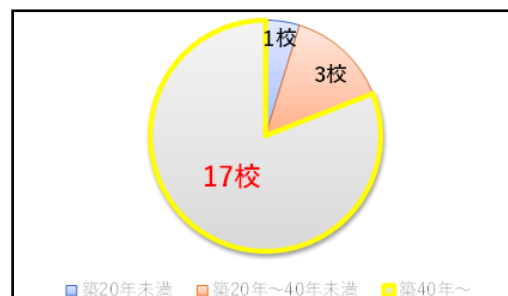
③ 安全・安心な学校施設の充実

学校施設の老朽化が進行

【築年数別の小学校数】



【築年数別の中学校数】



安全・安心な学校施設へ向けて…

- ★ 近年の社会情勢や教育ニーズ(バリアフリー化, インクルーシブ教育, 施設の複合化等)を踏まえた**計画の見直し**
 - ➡ 「学校施設個別施設計画」を見直し(令和6年度～)
- ★ 施設改修等にかかる**財政負担の平準化**
 - ➡ 中長期的な計画に基づいた建替えや改修工事の実施
- ★ 児童生徒の増加に対応した**必要な校舎等の整備**

参考①：花野井小学校大規模改修工事例



参考②：田中北小学校増築校舎事例(令和7年度予定)



4 実現へ向けた柱となる事業・取組（トピックス6点）



(6) 学びを支える教育環境 ④ 心身の健康を支える給食の提供

■ 柏市では、各学校内の調理場で調理した給食を提供する「**自校方式**」と、学校給食センターで調理した給食を各学校に配送する「**センター方式**」の2つの方法で給食を提供

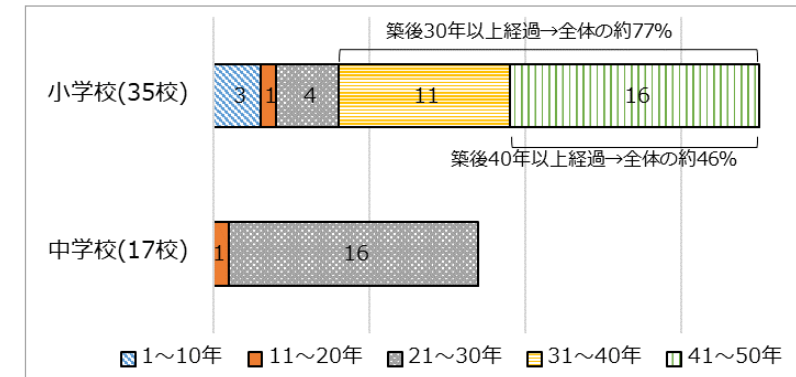
対応の方向性

- ❑ 衛生管理の充実強化
 - ➡ 計画的に学校給食センター及び自校方式調理場の改修・建替を実施
 - ➡ 調理員の安全衛生の向上（給食調理場への空調整備）
- ❑ 学校給食センターの機能強化
 - ➡ 自校方式調理場改修時における給食提供能力を整備
- ❑ 生きる力と豊かな人間性を育む「食育」を推進
 - ➡ 『見える給食調理場』を整備，地産地消の推進

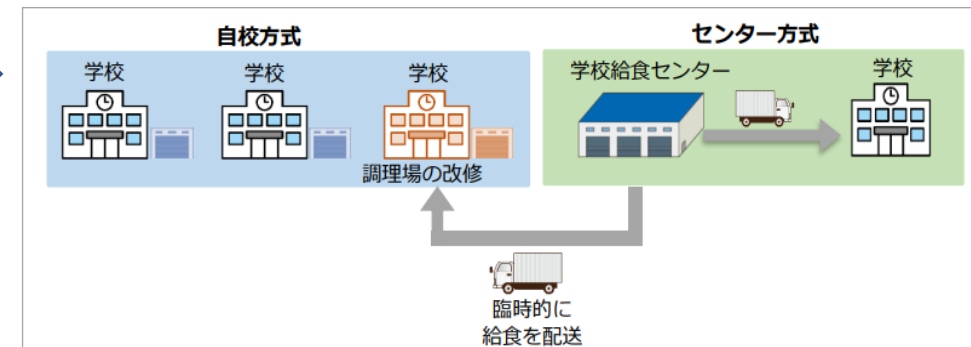


見える調理場イメージ

【参考：自校方式給食施設の経過年数（単位：校）】



【施設の改修や更新時の配送イメージ】



知ってもらう



- ① 児童生徒
- ② 保護者
- ③ 教職員
- ④ 地域の方々

学校教育について 具体化



教育振興計画
を令和7年度に改訂
→誰一人取り残さない
学校教育の実現へ

学校施設について 具体化



学校施設個別施設計画
を令和7年度に改訂
→将来を見据えた
学校施設の実現へ

- エッセンスをまとめた“概要版”や“要約版”を作成
➡ 児童生徒・保護者・教職員・地域の方々へ幅広く周知